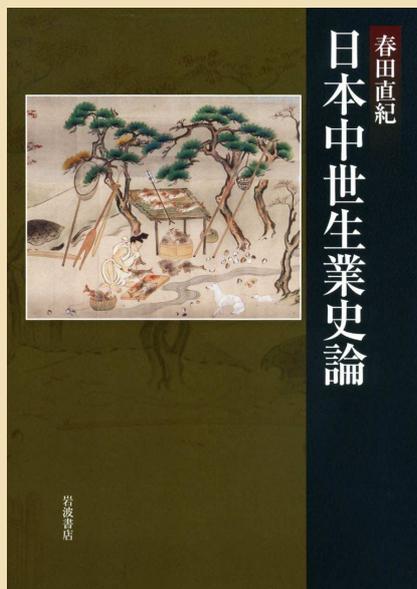
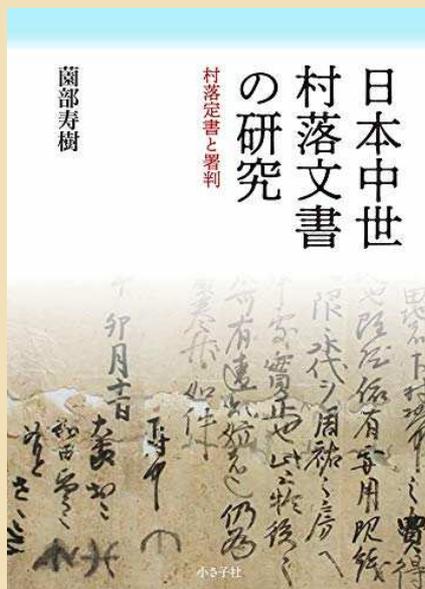


# 日本中世の「地下」社会

— 蘭部寿樹の文書論と春田直紀の生業論から考える —

事前申込不要  
参加費無料



地下文書の背景にある日本中世の生業とリテラシーについては昨年、蘭部寿樹『日本中世村落文書の研究』（小さ子社）・春田直紀『日本中世生業史論』（岩波書店）が刊行された。本シンポジウムでは両書を中世前期・中世後期それぞれの視点から論評するとともに、近世史・中国法制史の専門家を招いて、中近世移行期および日中比較史への展望を示す。

日時 2019年 6月 16日（日） 10:00～16:30

場所 立教大学池袋キャンパス・14号館D301教室  
東京都豊島区西池袋3-34-1、JR池袋駅西口より徒歩7分

午前の部：蘭部寿樹『日本中世村落文書の研究』をめぐって（受付開始 9:30）

【趣旨説明】 10:00～10:05

佐藤雄基（立教大学文学部）

【報告】 10:05～11:30

高橋傑（慶応義塾普通部）「内容紹介＋中世前期・荘園研究からみて」

坂田聡（中央大学文学部）「中世後期村落論からみて」

富善一敏（東京大学経済学部）「近世文書管理史の側からみて」

【質疑応答】 11:30～12:30

午後の部：春田直紀『日本中世生業史論』をめぐって（受付開始 13:30）

【趣旨説明】 14:00～14:05

高橋一樹（武蔵大学人文学部）

【報告】 14:05～15:30

朝比奈新（立川市）・熱田順（中央大学文学部）「内容紹介＋地下文書論からみて」

田村憲美（別府大学文学部）「中世前期「在地」論からみて」

寺田浩明（京都大学法学部名誉教授）「伝統中国生業論からみて」

【質疑応答】 15:30～16:30